

岐大通 2011



2011 J.League Division2 第2節 愛媛FC戦

9/24(土) 16:00~ @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

勝ち点1を「いただいた」試合。 岐阜1-熊本【第2節】

ホームでの熊本戦、1対1の引き分け。勝ち点1をゲット。熊本ペースでの試合展開。今日も負けるな、と思ってました。野垣内の誕生日を勝利で飾りたいよね、と、息子と会話。前半を0対0で折り返し、嶋田選手のゴールで先制！でも、まだ1点のリードのみ。油断しないで！と思っていましたら、熊本が得点。これは、逆転負け？かとも…。ハラハラしながらの観戦でした。(s223)

奮起を期待していたホーム3連戦。けっきょく得ることができた勝ち点はこの試合の1点のみ。しかも、勝ち点を得たとはいえ、公式記録によれば、シュート数は4-10。コーナーキックは2-14。そして、ゴールキック18-8。ゴールキックの回数が攻撃にさらされていたことの証拠であることはいうまでもないワケで……。ただ、相手の熊本が(いつのまにかこんな順位にまで落ちてきた理由がよくわかるような)決定力不足だったおかげで、なんとかドローに持ち込めたという内容。そんな中で、失点せずになんとか前半を持ちこたえたことと、先取点を挙げたこと。そして、その先取点は実に鮮やかなゴールだったこと。それくらいを慰めにするしかないのが寂しい。試合後のインタビューで、熊本の選手に「岐阜の守備は厳しく来なかった」「ユルかった」と言われてしまうようでは、こういう状況もやむをえないのか？おまけに、得点を取るために、チームを活性化させるために交代で投入した選手が負傷退場ときは……。しかも、こういう交代出場後の負傷退場が今季3回目。特に接触とかがなかったのにもかかわらず、だ。もう、笑うより他にないんだろうか？

アウェイの水戸戦で勝ってから、まだ1ヶ月も経っていないのに、もうずいぶん久しく味わっていないような感覚に陥ってしまう。ただ、それでもスタジアムへ足を運ぶのは、もちろん勝利に瞬間に立ち会いたいという気持ちもあるけれど、それ以上に「ほんの少しでも、選手の力になりたい。勇気を与えたい。」という思いがあるから。まだまだ、こんなことではくじけません。徳島では、いつも以上に応援してきます！(ぐん、)

リーグ中位~下位相手のホーム3連戦で勝ち点1。それも、「負けなくてよかった~」と深い深い安堵の溜息が出るような試合で。「これだ！これがぶっちぎり最下位の現実だっ！」と納得せざるを得ない。

そりゃ正吾の先制点は鮮やかだったわさ。でも、よかった点はそれくらいでないかい？先制点が入るまでは、女子・五輪予選での豪中戦中継での大竹さんの解説にあったように「(失点は)時間の問題」という感じだったし。「岐阜が勝ち点1を獲った」というより「熊本が勝ち点1をくれた」試合だった。やっぱり同期は大切にしくちゃね。

あ、もう一つ「よかった点」があった。毎度のごとく選手交代の決断が遅い木村監督だけど、そのおかげで途中交代で入れたブルーノが負傷した時にまだ交代枠が残っていたことだ。見事です>木村采配(笑)。勝ち点が獲れたことも含め、木村監督には試合後の挨拶で「ドヤ顔」でもしていただけると、荒んだサポーターの心も和んだかもしれませぬ(笑)。(吉田鑄造)

【ユース】後期リーグ戦とJユースカップ

我がFC岐阜ユースU-18(以下岐阜ユース)は、9月17日から23日の間に来年度G2リーグへの昇格を目指してG3の後期リーグ戦を戦っています。9月19日(月)の時点で2試合終了して2勝0敗0分けのリーグ首位。23日の最終戦で引分け以上で昇格が決定します。締切の関係でこの原稿ではフォロー出来ませんが、きっと最終戦も勝利で昇格を決めてくれる事でしょう。吉報を待っています。

岐阜ユースは今年の公式戦はいよいよ「2011 Jユースカップ」を残すのみです。初戦は10月22日(土)長良川競技場にて横浜Fマリノスユースと対戦します。キックオフは13時です。横浜Fユースは中村俊輔を筆頭に多数のJリーガーを輩出している強豪です(汗)。でも慌てずに自分達のサッカーをしていけば、きっと岐阜ユースにも勝機は有る筈。仲間を信じて、自分を見失わず、持てる力を全て出して、プレーしてきて下さい。そして読者の皆さん、もし都合がつく様であれば是非メモリアルに来ていただき、緑の若人に声援を送ってやって下さい。

FORZA! FC岐阜ユースU-18!!! (シュナ)

today's guest

愛媛FC

2010 J2 1位
J2通算対戦成績:1勝4分4敗
2011成績
第1節 11/05/27 愛媛2-0岐阜
2010成績
第1節 10/07/24 岐阜1-愛媛
第3節 10/10/17 愛媛0-0岐阜

2011J2 順位表 第2節 変則

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績(岐阜から視点)

| | | | | | | | |
|----|------|-----|-----|----|----|-----|-----|
| 1 | FC東京 | 48p | +28 | 43 | 15 | A | H |
| 2 | 札幌 | 46p | *12 | 30 | 18 | H | A |
| 3 | 徳島 | 45p | +14 | 38 | 24 | H | A |
| 4 | 鳥栖 | 44p | +21 | 42 | 21 | A | |
| 5 | 千葉 | 44p | +10 | 38 | 28 | A | H |
| 6 | 栃木 | 42p | +10 | 32 | 22 | H | |
| 7 | 東京V | 37p | +21 | 51 | 30 | H | A |
| 8 | 北九州 | 37p | -4 | 25 | 29 | | |
| 9 | 大分 | 35p | 0 | 28 | 28 | H | |
| 10 | 湘南 | 35p | -3 | 28 | 31 | H | |
| 11 | 愛媛 | 34p | -7 | 29 | 36 | A | |
| 12 | 熊本 | 34p | -7 | 23 | 30 | A | H |
| 13 | 草津 | 33p | -9 | 28 | 37 | | |
| 14 | 京都 | 30p | -5 | 29 | 34 | H | |
| 15 | 横浜FC | 30p | -5 | 27 | 32 | A | |
| 16 | 岡山 | 30p | -14 | 29 | 43 | H | |
| 17 | 富山 | 27p | -12 | 22 | 34 | A | |
| 18 | 鳥取 | 23p | -7 | 26 | 33 | A | H |
| 19 | 水戸 | 23p | -9 | 26 | 37 | H | A |
| 20 | 岐阜 | 12p | -32 | 18 | 50 | --- | --- |

次回 HomeGame

第3節
横浜FC戦

10/15(土) 13:00
@岐阜メモリアル
センター長良川競技場

投稿募集!

gidaidohr@hotmail.co.jp

FC岐阜大好き通信(岐大通)
9/24号
編集発行:『岐大通』製作委員会
今号の製作担当:ささたく&吉田鑄造

編集子より
ご愛顧いただきありがとうございます。
今シーズンも「全ホームゲーム」での発行を目標にしますので、よろしくお願致します。

「いらっしやいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:日曜日(今日は営業しています)

ALADDIN

何も無い店だけど・・・
心の花が咲く・・・
何も無い店だけど・・・
心癒される・・・
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

豪雨の中で『差』を見せつけられる。 徳島 4-1 岐阜【第28節】

天候やピッチコンディションを意識して、それに対応できるチームとそうでないチームとの差。そう考えると、1-4という結果はしかたないのかもしれないが、技術以前の気持ちや心構えに問題があるんじゃないか？と思える内容に正直落胆してしまっただ。

後半途中からは雨もおとなしくなってきたが、キックオフ前から試合途中までの雨のせいで、ピッチコンディションはよかるうはずもない。それなのに、なぜかグラウンダーでつなごうとする攻撃陣。相手の最終ラインからのロングボールで、そろって敵FWに置いていかれるCB。まあ、そのへんは、どう転がるか読めないピッチのせいもあるから運がなかった、言えるのかもしれない。

しかし、取られた時間帯が悪すぎる。それでも、次の一点を取れば、同点になれば。試合後のインタビューで監督も話していたが、そういう指示を受けたその直後。後半開始30秒でのPK献上・・・これも不運といえば不運。明弘には気の毒な判定かもしれない。最初に接触したのはペナルティエリアの外だったようにも思うし、特に妨害したようにも思えない。ただ、どうして、この時間帯なんだ？ ダントツの最下位とはいえ、岐阜の選手もプロ。若いけれども、ことサッカーの実戦経験に不足があるはずもない。実績、経験のある指導者から大事なことを学んで、「リーガーとして戦っているはずだ。」「終了間際の5分、入りの5分」は点が入りやすい。要注意。こんなことは、基本中の基本。もう、聞き飽きるくらい聞いてきたはずだよな？ それなのに、ご丁寧にその注意すべき時間帯の2つとも失点しては、勝利をつかむのは困難だろう。

「やることをやった。」チームでも、サッカーの神様が微笑んでくれるとは限らないが、少なくとも「やっちゃいけないことを繰り返す」チームに振り向いてくれるとは思えない。というより、「振り向いてください。」とお願いすることが恥ずかしい。

それでも、諦めることなく、何としても点を取ろうと選手たちはガンバっていた。だからといって、「0-4になってもガンバリました。1点返しました。」という姿だけで満足してくれと言われても（イヤ、選手はそんなこと言わないと思うけど）困るんでね。

ただ、どうしても納得できないことがいくつかある。どうして、洗一の投入が0-3になってからなのか？ 光をあこの時間まで引っ張るのはなぜなのか？ さらに、残り5分になってからの川島投入にどんな意図があるのか？ しかも、代えられたのが橋本というのがわからない。川島にボールの捌きや前線のツインタワーへの供給は、期待する方がおかしいと思うのはボクだけか？ ボールを足元でつなげないのだから、川島も前線に入れてトリプルタワーに放り込む。供給するのは、押谷、橋本、明弘に秀人。4点差つけられたしまったら中盤を省略するしかないだろう？ 点差にも余裕のある徳島の中盤と、正面からぶつかってもしょうがない。それに、たった5分じゃ、川島も気の毒だ。なんというか、もう少し選手の特徴を生かした起用ができないものだろうか？ それとも、橋本が余計な黄紙をもらったり、ケガをしつたりしないようにという配慮だったのだろうか？

それから、試合会場の天気予報ぐらいは、事前に確認しておきましょう。そして、天候に合ったゲームというのはどういうものか？ というのを、もっと具体的に指示してあげてください。とても、天候を意識したゲームには見えませんでした。よろしくお願いします>監督。(ぐん、)

台風15号の影響で、豪雨の中でのアウェイ徳島戦。前節の熊本戦で引き分け、連敗をストップした次の大事な試合。確かに今年の徳島は上位にいるが、しかし悪天候での試合では、競り勝ち、走り勝てば勝機が見えてくる。一昨年のセレッソ大阪戦での劇的な勝利もそうだったように...と、試合開始前には僕は思っていた。

しかし、スタメン発表で、今日はFWが嶋田・西川の2人と知り、不安が胸をよぎった。この天候なら、西川・洗一の2トップにして、シンプルにボールを前線に集め（あるいは放り込み）、後は競り合ってチャンスがあればシュートを撃ち、こぼれ球を狙っていくサッカー、つまり（言葉は悪いかもかもしれないが）いわゆる「縦ポン」サッカーが有効だろうと思っていたからだ。一体、FC岐阜はどうやって戦うつもりなのだろうか...

もちろん、試合開始時には選手たちは集中していたし、精力的に動いていたと思う。しかし、あちこちに水たまりが出来ているようなピッチコンディションでは、水たまりにボールをとられる可能性が高く、非常にリスクだ。だから、あのストイコピッチ（現・名古屋監督）だって、17年前の水たまりだらけの長良川メモリアルでリフティングドリブルしたんじゃないかな？

ところが、岐阜の選手たちはこの豪雨の中でも、よく言えば「いつも通り」、悪く言えば「工夫の無い」方法で相手ゴールに向かおうとする。短いパスを繋ぎ、ドリブルでサイドを仕掛け、ショートカウンターを狙い...。確かに、常に「自分たちのサッカー」をすることも大事だと思う。けれど、ピッチコンディションを全く考えないというのも、「勝利」を目的としたサッカーにおいては問題なんじゃないだろうか？ 現に、前半は同じ場所（の水たまり）でボールが止まってしまったにも関わらず、それでも、そのスペースを使おうとして、相手にボールを奪われたり、あるいは折角のチャンスなのにボールが止まり、攻撃の芽を自ら潰してしまうシーンが何度かあったと思う。

逆に、相手の徳島はピッチを考えた戦術だったと思う。岐阜の1失点目は、DFからのロングボールを岐阜の最終ラインに放り込まれ、それに反応して抜け出した徳島MF柿谷がゴール隅に蹴りこんでのも。逆に岐阜のCB陣は、柿谷に一步置いていかれてしまったのが致命的な結果となってしまった。2失点目は...まあ、不運な判断という事もできるが、しかし、徳島FW（そして岐阜出身）津田の突進に明弘の反応が遅れ、ペナルティエリア内で腕で倒すような形になってしまった献上したPK。3失点目は、C Kのボールを、徳島DF西嶋が競り勝ってヘディングシュート。4失点目は、DFラインでボールを柿谷に奪われ、蹴りこまれる。どれも、これまで経験してきた失点シーンと似た、毎度おなじみの光景。

岐阜は、（最近の残念な定型句だが）「前半はよかった」のだけれど、前半43分に1失点目を喫し、立て直したかった後半開始直後にPKで2点目を失ってからは、（ピッチ状態も影響したかもしれないが）動きも悪くなり、ほとんど良い形を作ることが出来なかったと思う。

そんな状況の中、意地を見せたのは菅和範。バイタルエリアでこぼれたボールを拾い、思い切って左足を振り抜くと、相手DFに当たりコースが変わったこともあり、1点を返すことが出来た。...しかし、奪えたのはその1点だけだったし、岐阜が放ったシュート12本中、枠に飛んだ（かつ効果的な）シュートは、非常に残念ながら、その1本だけではなかっただろうか。これでは、勝てる訳もない。本当に悔しい結果なのだが、「負けるべくして負けた試合」だったと言わざるを得ない。

この時期になっても、相変わらず、攻撃も守備もチグハグで、「チームとしての意図・形」が、あるいは「勝つ為の工夫」が見えてこない。例えばパスの出し手と受け手の想いがズレているなら、どうしてそのズレを解消するよう、監督やコーチや選手たちは、練習や、あるいは試合中にだてコミュニケーションを取り合って修正できないのか...とても悔しく、歯がゆい気持ちで一杯になった。

いつの間にか、今シーズンも残り13試合。既に3分の2を消化したことになるが、逆に考えれば、「まだあと13試合もある」。残り試合すべて、最後の最後まで、勝利への執念を見せて戦い抜いて欲しい。（ささたく）



本庄工業株式会社

<http://www.honjp-woodream.com/>